

大町保健所管内で「苦味の強いユウガオ」による食中毒が発生しました

大町保健所管内で、「苦味の強いユウガオ」を食べたことによる食中毒が発生しました。

患者は、自宅で栽培したユウガオの煮物を食べた1グループ4名中の3名で、食べる際に強い苦味を感じたとのことでした。

なお、患者は全員快方に向かっています。

【事件の探知】

令和元年7月17日午後0時30分頃、大町保健所到大町市内の医療機関から「自宅で栽培したユウガオを食べて嘔吐、下痢を呈したと思われる患者を診察した。」旨の連絡がありました。

【大町保健所による調査結果概要】

- 患者は7月16日に自宅で栽培したユウガオを収穫し、同日午後7時頃夕食にユウガオの煮物にして食べたところ、強い苦みを感じ、約30分後に喉の違和感、嘔吐、下痢などの症状を呈しました。
- 大町保健所が確認したところ、患者が喫食したのはユウガオの煮物でした。
- 患者の症状は、ユウガオの苦味成分（ククルビタシン類）による症状と一致していました。
- 患者を診察した医師から、食中毒の届出がありました。
- これらのことから、大町保健所は「苦味の強いユウガオ」を原因とする食中毒と断定しました。

担当保健所	大町保健所	
患者関係	発症日時	7月16日 午後7時30分頃から
	患者症状	喉の違和感、嘔吐、下痢など
	患者所在地	大町市
	患者数 及び喫食者数	患者総数／喫食者数 : 3名／4名 (患者内訳) 男性: 2名 (年齢: 30歳代及び70歳代) 女性: 1名 (年齢: 20歳代)
	入院患者数	1名
	医療機関受診者数	3名 (受診医療機関数 1か所)
原因食品	ユウガオの煮物 (推定)	
病因物質	ククルビタシン類 (推定)	

==ククルビタシン類による食中毒==

【特徴】

- ククルビタシン類は、観賞用のウリ科植物(ヒョウタンなど)に含まれる苦味成分です。
- ごくまれに、食用のウリ科植物(ユウガオなど)に高濃度のククルビタシン類が含まれている場合があります。
- 過去にヒョウタンの誤食や苦味の強いユウガオによる食中毒が県外で発生しています。

【症状】

- 食後数分～数時間で唇のしびれ、吐き気、嘔吐、腹痛、下痢を起こします。

【予防方法】

- 食べてみて、強い苦味がある場合は、食べないでください。
(※ゴーヤ(ニガウリ)の苦味成分はククルビタシン類とは別の物質です。)

[参考]

- 厚生労働省のホームページ ～自然毒のリスクプロファイル：高等植物：ユウガオ～

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000079844.html>

- 長野県のホームページ ～激しい苦みのあるウリ科植物にご注意ください～

<https://www.pref.nagano.lg.jp/shokusei/kenko/shokuhin/shokuchudoku/yugao.html>

- 長野県内（長野市含む）における食中毒発生状況（本件含む）

令和元年度 （うち 長野市）	4件 （1件）	207名 （2名）
平成30年度 （うち 長野市）	17件 （6件）	194名 （51名）

※過去に長野県内でククルビタシン類による食中毒事例はありません。

確かな暮らしが営まれる美しい信州 ～学びと自治の力で拓く新時代～

しあわせ信州創造プラン 2.0（長野県総合5か年計画）推進中

大町保健所 食品・生活衛生課
(次長)小根沢 義行 (課長)黒岩 浩一 (担当)山口 哲弘
電話:0261-23-6528(直通)
0261-22-5111(内線 2351)
FAX:0261-23-2266
E-mail omachiho-shokusei@pref.nagano.lg.jp

健康福祉部 食品・生活衛生課 食品衛生係
(課長)吉田 徹也 (担当)福井 秀樹 飯塚 春彦
電話:026-235-7155(直通)
026-232-0111(内線 2661)
FAX:026-232-7288
E-mail shokusei@pref.nagano.lg.jp